

五期生

故林氏、平山君に捧ぐ

高津ハンドボール部

泥中にあるとき

額田 晃作

部史を作ると言う。クローポンのパンの時
代、焼跡がまだあちこちにあつた時代。ユ
ニフォームは五彩、揃えようにもノーマネ
ー、そして先輩等の作られた肌着をエビ茶
に染めて白い衿をつけたのをゆずり受け、
足りない着は適当なシマツを着てゲームを
やった。この時代に部史を作る事等は考え
もせず。たゞ橋本大に三ボられ強くなろう

強くふちうと連日、学校は五日制でも
練習は七日制、それなのにそれなのに勝つ
事が少なかつた。従がつて暗い戦跡は子業
と同時に忘れようと思つてしまつた。私
としては惜しくはないが部から見れば、私
を自ら削つた事になるかもしれない。お許
しを乞う。

私が送球部(当時)はハンドボールと言
うより送球という方が多かつた。始めて見
たのは皮肉にも野球部が夏の甲子園に出場
し初戦で破れはしたがその敢闘を祝つて行
なわれた。B現役戦に父が後援会会長の
手前出場するので観戦していた時である。
当時は野球のネットが校長官舎の前に張ら
れ、グラウンドも今の半分程でライトが校
舎に接し、後に慶応、鐘紡と進んだ投手、校
四番の福沢氏がラピットボールの關係もあ
ろうが校舎をポックリ起した時代であつた。
ネットはその後今の工俵の所に木造で大
きなのが建てられ、グラウンドの拡張と共
に今の場所に移され、建てられた。ネットの
よくなると反比例して弱くなつていく様に
思われる。なせ他部のネットの位置をくど
く、と述べたかとうとうと、その位置によつ
て狭かつたグラウンドでの練習が朝日の勢

の野球部の打球により我々の練習をおびやかされた事が忘れられないからである。虎りを生じた硬球が何人かに当つても大事に至らなかつたのは神の加護？によるものである。

その日、B戦の時に見た、それも二人だけの練習を、録巻をした人がシユートしている。たゞそれだけであるが、今もほっきりに浮ぶ。その人は多分橋本代であろう。尻の大きさを判かる。

年が變つて高津へ入つた。中学でやつたサッカーをやるか、野球をやるか、で迷つたが手でやるサッカー即ち送球という事で橋本君の進めど踏み切つた。

悪い頭を無理して記憶を呼び起すといふ事はシンドイ、とにかく初陣は北野との練習試合でハイフライ二よりストライクのシユートを打ちつた。ええ根性うらよと無理と言われ敗れはしたが素晴らしい充実感があった。FW橋本、佐々木、乙岡、奥村、橋本

小生、B津田、箱田、井ノ口、合田、田原、K林、であつたと思つた。これでは数ヶ名わらない。このメンバーから取れる事もない。

生が怖りにアイスマンデーを喰べさせて下さつた事はほっきり覚えてゐる。心臓が先生である。

練習は基本練習が主で当時程体力を作らなかつた。事実をやかましくいわれた時になかつた。一般に小粒で卒業してからは伸び出し、着がいたりして真に皮肉なものだ。陸飛、馬飛、び、ワシツードス、ロングのランニングもシンドイ奴ばかりだつた。

私達のクラブは橋本代あつてこそ存続していらつた。美文夫、村の詰襟、七三の黒髪バツリ、眼力は正邪を見究め、云うならば、依り腰が一旋して射つ球は必ずキーパーの手に触れずネットをゆす、た、ヤッサンが

大学でやつてたら全日本級は固かつた。後には佐々木代が云われるが賛成である。し、その様な余暇があつたら全高津でコレを教えたと思つた。卒業後も指示された練習が済んだ頃にはやつて来てはコテ

コテに月の先の練習を受けた。練習が済んでネットをはずして、ボールの空気を抜

キ、皆揃つて校門を出る。家庭の事、勉強の事、一人一人の事に使はさる。私もクラブ

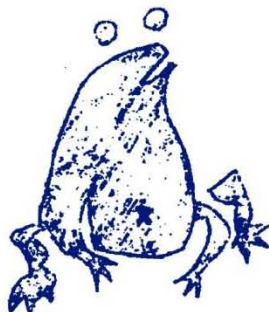
のマネージャーの事は色々やつた。ガッサン、のや、た事が大きな教訓となつてゐる。誠実なもの、様なコトを受つて、癒は

なれなかつたけれど、自分の生活の病處にボールというものが落付込むという病處に

成り、又同病患者が多く出てくるのはヤツ
 甘シのカであり、所為である。
 一年生の合宿は二階の一室校内よりの部
 屋で講堂の椅子を四つ組んでベツトにして
 泊り、食事は食堂、風呂は焼けたうぶ湯と
 書いた煙突を見ながらコチニノの足を
 引きずって鶴橋の方へ入りにいった。後に
 合宿でコーチをして宿った時真田山、空堀
 上六、上四、日赤の南、うぶ湯と入りに入
 ったが、うぶ湯が一番感じがよろしい。お
 まけにうぶ湯のお嬢さんがハンドボールを
 やるとはね、因念というものでしよう。凡
 呂で思ひ出すが、故平山君と私が渡辺君に
 毛がないのを発見した。お前まだか、おう
 まだやねん、平山君も渡辺君も独特のクツ
 クツと笑いながら話していた。我々の中で
 一番早く結婚したのが渡辺君で、一番早く
 、こくなつたのが慎重な平山君とは判らな
 いものだ。
 私が生まれて始めて生命の危険を感じた
 のはこの合宿である。橋本、佐々木、乙田
 、林、菊出、津田の三年生が鬼に見えた。
 二年は奥田、井斗、倉田、一年は樽本、平
 山、田原、渡辺、上田、芝田で篠原君も入
 っていたかも知れない。この時のヤツカン
 の苦境は海千山千の同級生の板いに手を焼
 き、朝の練習をさぼって屋上で眠る林氏を

追いかけてたり。七時間練習をなんとか短か
 くしようとするのを丸めたり、神の如き存
 在もコーチ兼キヤアテンでは自分もノック
 反討ちに合わねばならぬ目を用いたまま眼
 るという位へばつていた。小生などは全員
 が円陣を作つて、球を廻すのをアタックする
 という練習に合ひ、ロシグのランニングシ
 ュートでは吐いてばかりいた。ついに一日
 昏睡し後は何とかがついでにいた。一年生は
 そんな練習にシユートといたが、二年生は
 体力の差と馴れか、蚊取線香を買いたとかで
 しほー、オーバ、フエニスを買ったとかで
 威の目を見張つた。中でも林氏の元氣さは
 特筆される。もうこくなられて十年近くな
 るが、球がネットにかかつてからでも飛ん
 でいったファイト、芝田君をつれて砂場で
 遊ぶ練習をさせていた姿が目につく。最後
 に合つたのは、日通のストがめつたので組
 合へこの鉢巻がめれば入つていける、と自
 慢先に赤鉢巻を見せていた。
 一年生大会はその先輩達の期待にこたえ
 る事が出来なかつた。勝山通の一戦は今な
 ら中止のコンデイションであるが当時は男
 女とも晴雨不論がラグビー並に徹底してい
 た。私のバリエーションに当ってポテンと泥中にスト
 ップしたシュートをゴールジャッジの奥田
 氏が敢然たる態度で旗を挙げた、入つてな

ヤッさんが務めから帰ってからの夜間練習はキツかった。しかし陽がカンーでないので助かったが隣室のパイの音は眠りにくかった。その後私がコーキで泊る時はこの気は特に注意し、コーキを二、三人に絞る後は通ってもらった。この頃は依然として五日制で練習試合をするのに恵まれ、豊中、北野、八尾、勝山、都島、勝てる所では山本、城商とよくやったが最初に書いた様な事情でスコアは灰になつた。合宿に三年生が参加しなかつた。時からクラブの実権は三年に移り、先輩の指示で樽本君がCAPになり私が会計になつた。新が練習をリードしていたのは私だった。ので妙な事になつたが、樽本君は公式のみのCAPで私を自由に振舞わせた。今もよく同じ態度で来る関係から送球の事を話すか、彼が大人であるのは今も変わらない。所が樽本君のお父さんが亡くなられてクラブをやめる様になり、一番樽本のポイントヤツタの穴は大きく、その後サウスポールの北中君が入った。山中、井上両君はその頃はバツクに入っていた。二年の総リか三年の始め、平山君が出垂炎で入院した。森田君は餅を喰べると盲腸が痛むという説を唱え



た。それ以後餅を喰べる毎に盲腸を押さ、平山君を思い出す。閑学へ進んで腹脹炎が腸捻転で亡くなったのもこの虫垂炎に關係はなかつたのではなからうか。これで平山君もプレーから遠ざかりFWもガタつき出し、三年に入ると勉強くが流行し、考き足だったクラブを如可ともしがたく。私はおまけに強んと黒人の絵画部を任せられたりして、合宿も行なわれず、井上、山中、北中、床田、島、京、岡部と三年の有志でクラブは動かされた。二年に移ってから井上君が、城商に試合を申し込んだがこちらの人類が足らず、試合が出来ないから断つて呉れなにかという。そんなクラブを二年に任せた私に責任があるのは勿論で、三拜四拜でお引き取り願つた。先輩が作ったクラブも、もはや二礼までかと思つた。絵を書く筆も重かつたがヤッさん流のクラブ経営法が成功してか絵画の方は日本一まで持っていた。私は文化部と運動部と入って両立するかという間に、つも勉強しないのならば両立するとは答えている。いつか又芽をふくつたボールも、今や完全に足元が固まり、

無敵ならずとも將來は真に明る。K.O.の
 ジョウラブは榎本君等が卒業した年に作つた
 と覚えておる。初代C.A.P.に選ばれたもの
 の大賞でプレーせず絵ばかり描いていた私
 には重荷で、たゞハンドボールのおもしろ
 さを再び味わせて頂いた。女子のクラブが
 作られてすぐ三位になったりしたが、これ
 は傑作であつた。一度K.O.のジョウラブも優
 勝戦で大敗クラブに敗れたが白紙入賞を
 貰ひ、洋と小さく書き、優勝と大書して御氣
 嫌な事であつた。今の隆盛はゲームの表面
 的な戦績だけでなく、メンバ―全体が充實
 した生活をしてゐる所にある。これはヤツ
 さんを始めとする先輩の精神が後輩に受け
 つがれ、中でも大賞でプレーした人々が高
 津の爲に技術と精神を持ち帰つてくれたお
 蔭である。旅チームには理論より体で示せ
 るだけの力がある。チームが必票である。こ
 の恵まれた時が続く限り我々は守心して前
 途を見守る事が出来る。又、オリンピック
 に除外された協会は政治的な弱さ、高津
 の先輩によつて強化され、スポーツ界に占
 るハンドボールの地位がより高くなる事を
 切に願うものである。



現役諸君の爲に

つまらん話

上田 孝

「もう駄目だ、息もとまりそう」として続
 かない。何度か思いながらあえぎ、
 練習してはいたあの頃、それでも結構やめら
 れなかつた日のことを明るく楽しい思い出
 として心に残している。ハンドボールにつ
 いて、あまり高く高津に入るまでは知らな
 かつた。今でこそスポーツ全盛でその名も多
 少は聞えてゐるがそれでもまだ、
 スポーツの種目なんて何でもない、ハンド
 ボールをやつた爲に身体も丈夫になり非常
 に有難いと思つてゐる。
 「ア口ならいざ知らず、われは一体何
 の爲に金儲けにもならないことに汗をか
 いて苦しむ思いをするのか、どういふ楽しい
 結果が与えられるのか、試合に勝つことが
 喜びで、敗けることが悲しみなのか、体力
 を発散させることに快よさを味うのか、彼
 女に勇猛ぶりを見せようか、ヒールのか、ヒ
 ールになりたのか、理屈を云い出せばき
 りがないが、色々な考えでスポーツをや
 りながら止めた方が身の爲。浮いた気持でや
 っている奴が案外多い。スポーツ選手を売物
 にして、他人より優越感を得ようとか、彼